ぴーぷる

戸苅（とがり）　丈仁（たけと）

石川県環境部水環境創造課
生活排水グループ
主任技師

◆これまでの経歴は

平成15年度に石川県に採用となり，土木部河川課に配属されました。２年後には北河内ダム建設事務所へ異動となり，基礎処理を担当しておりました。

平成19年度には県央土木総合事務所都市施設課に異動となり，ここでは主に街路事業を担当しておりました。まちづくり協議会等，地元の方々とふれあう機会も多く，大変勉強になりました。

平成22年度より現職場に異動となり，主に公共下水道事業関連の業務を行っております。

◆現在の担当業務は

今年度より，環境部水環境創造課生活排水グループに配属となりました。主に公共下水道事業の認可や予算関連用務，調査関連用務を担当しております。下水道事業については，土木事務所時代に処理場の耐震工事を担当したことがあるのですが，本格的に担当することは初めてで，４月当初は自分の知らない単語が数多く飛び交うため，「これは勉強しないとついていけない」と思い，焦ったことを覚えています。

下水道新技術推進機構さんとは「メタン排出抑制新技術推進事業」における共同研究で，一緒に取り組ませていただいております。当事業は，二酸化炭素の約21倍の温室効果があると言われているメタンの利活用技術を研究開発することで，地球温暖化の防止につなげようという事業です。石川のような小規模な下水処理場が多い県では，水処理としてODを採用している所も多く，従来の消化方式ではなかなかメタン利活用技術の普及が進まないという現状があります。そこで，今回，他のバイオマスとの混合処理を含めた小規模処理場向けのメタン発酵技術を開発し，小規模処理場での普及促進につなげようという狙いがあります。

また，本事業では「メタン排出抑制技術検討委員会」を設置し，学識経験者のみならず県内民間企業の方々に委員として参加していただくことで，メタン利活用に関する技術力，競争力を身につけていただこうとも考えております。

◆今後の抱負

今後，循環型社会の形成において下水道の果たす役割は大変重要なものとなると考えられます。下水道事業に携わるものとして，日々勉強を怠らずに頑張りたいと考えております。

家壽田（けすだ）　昌司（まさし）

東京都下水道局
基幹施設再構築事務所
設計課長

◆これまでの経歴は

平成４年入都。建設局に配属され，神田川や妙正寺川といった中小河川の治水対策に従事。当時世界最大径のシールド工事（神田川・環状七号線地下調節池工事：外径13.94m）の工事監督も担当しました。

平成９年４月に下水道局へ異動。出先事務所で管渠の設計を３年，本庁で計画部門を５年経験したところで管理職試験に合格。交通計画（都市整備局），区役所出向（品川区）という別世界の職場経験を４年間積んだ後，平成21年７月より現職で頑張っています。

◆思い出に残る仕事は

何といっても，平成13年11月に公表した『神田川浸水予想区域図』です。全国で初めて下水道の内水氾濫を組み込んだもので，試行錯誤の連続でした。前例のない取り組みでしたので，河川管理者と激論を戦わせることもしばしばありました。下水道新技術推進機構発行の『流出解析モデル利活用マニュアル（雨水対策における流出解析モデルの運用手引き）』が貴重な参考図書でした。このマニュアルがなければ，神田川浸水予想区域図は完成しなかったと言っても過言ではありません。

もう一つ珍しいところでは…東京都では処理場を『水再生センター』と呼んでいますが，この新名称を検討する委員会の事務局も担当しました。委員長の北野大教授を始め，俳優の児玉清さん，デザイナーのコシノジュンコさんなど，各界の著名人が下水処理場の未来について語っていただいたことが忘れられません。

◆現在の担当業務

基幹施設再構築事務所は東京23区全域の基幹施設の整備を所管する事務所で，平成21年度の決算総額は933億円というマンモス事務所です。設計課は，下水道幹線の新設・再構築を中心に，送泥管，再生水管，光ファイバーといった広域的な施設の設計を担当しています。

都内の下水道は輻輳した地下埋設物を避けるため，より深い位置に布設せざるを得なくなっています。そのため，高落差の処理に関するノウハウを有している『機構さん』は，我々にとってなくてはならない重要なパートナーなのです。今後とも，よろしくお願いいたします。